

2025年度

芝国際中学校

学校案内パンフレット付属資料



SHIBA KOKUSAI
JUNIOR HIGH SCHOOL

理想の社会を生徒が創る

Building your future

本校が目指す教育のゴールは、理想の社会を生徒が創ることです。生成AIなど科学技術の進歩によって社会もどんどん変化していきます。進化する科学技術に振り回されるのではなく、むしろそれらを使いこなしながら、人類と地球全体の幸せに貢献することができるチカラを身につけます。

3つのステップで、実社会の課題に挑戦する

🔍 課題を発見し、解決へ導く力を育む

STEP 1 課題を見つけ、誰かの役に立つ経験から

「貢献」の視点を育む探究学習

探究学習の第1ステップは、いわばアントレプレナーシップ（起業家精神）の土台づくりです。中学では「私を変えたい社会の景色を探そう」をテーマに、それぞれ身近な社会課題を見つけ、自分たちにできることは何かを考えます。そうすることで、どんなに大きな社会課題でも分解して考えれば解決できる方法があることを体験してもらいます。

FOCUS

Critical Thinking and Designを学ぶ

本校では、探究学習をはじめ、各教科のさまざまな場面において、Critical & Design Thinkingを学びます。マンダラチャートやマインドマップ、ブレインストーミング、KJ法、シックスハットといったいくつかの「考える手法」で思考を整理。クラスメイトと意見を交わしながら課題を解決する経験を積み上げていきます。



プロジェクトを立ち上げ、やり抜く

STEP 2 こんなことまで生徒主体!?

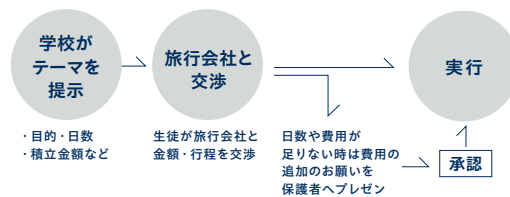
自分たちで創る修学旅行

探究学習の第2ステップとしてチャレンジするのが生徒主体で創る「修学旅行」です。3年生秋の修学旅行までの間、提示された旅のテーマ・日数・費用をもとに行き先を自分たちで企画し、旅行会社と交渉。1年生、2年生は修学旅行のテーマを「平和に貢献できる活動をする」に決定。1年生で平和と貢献について学び、2年生ではみんなが考える「平和に貢献する活動」はどこに行ったらできるかを具体的に検討。自分たちで創り上げるからこそ、思い出深い旅行となります。

FOCUS

文化祭も体育祭も、競技ルールだって生徒の手で創っていく学校

本校は、生徒と創る学校です。行事などを立ち上げていく中で「できない」ではなく「どうしたらできるか」を考え、仲間と意見を交換し、次の段階に進む。学校生活の中でこうした経験を積むことで、将来より良い社会や人生を切り拓いていける力を養っていきます。



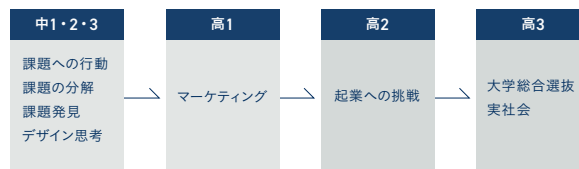
実社会で通用する起業家精神を育む

STEP 3 「自分にもできる」その気持ちが

アントレプレナーシップの土台に

探究学習の第3ステップは、高校からマーケティングを学び、起業を目標に学習します。さまざまな起業の成功例に触れることで、自分にもできるという自己肯定感を高め、チャレンジ精神を向上。さらには「貢献」というゴールに向かって、社会に必要とされるサービスや商品を生み出せる力を育みます。

アントレプレナーシップを育む学びの全体像



世界標準の学び

A global standard of learning

一つの解が存在しない課題に対して周囲と共に最適解を構築し、自他の幸福を追求するコンピテンシーを培います。

世界で活躍する力を育てる

自ら学ぶ姿勢を育む

スクールルーブリック

「スクールルーブリック」をもとに各教科の評価軸を設定し、生徒と教員が授業のゴールを共有。目的意識を持って学ぶ習慣を身につけます。

思考力・表現力などは、評価の根拠を言葉で明示し、学びへのモチベーションを継続させます。

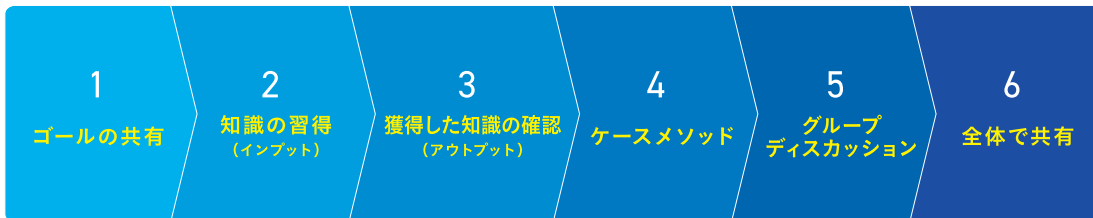
■ 芝国際中高のスクールルーブリック

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	他者・多者との協働 他者の行動の変容と貢献
第3段階	獲得した知識・技能を使って 論の発展に寄与する	新慣習 自ら提起した慣習を推進できる	世界・宇宙 社会を越えて、世の中に行動の変容を起こすことができる
第2段階	知識・技能を獲得=知識・技能が使える	脱慣習 これまでの議論から、自ら新たな提起ができる	社会 隣人を越えて、社会に行動の変容を促すことができる
第1段階	知識・技能を理解する	慣習 これまで議論されてきた内容を踏まえている	隣人 身近な隣人に行動の変容を促すことができる

未来の問題を解決する力を身につける

対話形式授業

授業内でのディスカッションやプレゼンテーションを繰り返すことにより、論理的思考力やコミュニケーション力、プレゼン力を高めます。



確かな学力

Pursuing academic excellence

解なき問いに挑む際、誤った知識では最適解を導き出すことができません。
インタラクティブな授業を主としながら、正確な知識のインプットをフォローします。

目指す進路を実現する

知識・技能を定着させる

チェック&フォロー体制

「わかったつもり」と「実際にできる」をしっかりと区別する学習システム。授業前のチェックと放課後のフォローを徹底する芝国際だからこそ、弱点をつくらないプログラムで安定した成績を支えます。

	月	火	水	木	金	土
8:15 ▼ 8:30	朝読書など	Check 英	朝読書など	Check 数	朝読書など	Check 国
15:15 ▼ 15:30	数 Follow	終礼・清掃	英 Follow	終礼・清掃	国 Follow	特別講座 部活
16:00	終礼・清掃		終礼・清掃		終礼・清掃	
16:15 ▼	部活動 (~ 18:00) 芝国際塾 (中学)・芝国際予備校 (高校)					

1~6限で確実に

教科力を定着させる充実のコマ数

主要5教科のカリキュラム

授業の中でしっかりと学力を養成できるよう、授業コマ数を設定。英語は標準を上回るコマ数で英語力強化を図ります。

英語の
コマ数
標準
4時間

芝国際では

7時間

■ 主要5教科の週当たり時間 (コマ) 数

	英語	数学	国語	理科	社会
1年	7	5	5	4	3
2年	7	5	5	4	3
3年	7	5	5	4	4
合計	21	15	15	12	10

1日当たりの授業コマ数：50×6時間 (土曜日は4時間)

芝国際の教員が教えるので、進捗度が共有できる!

放課後サポート

■ 芝国際塾 (中学) ※希望者のみ

自習室：15:45 ~ 18:00 授業：16:00 ~ 16:50

対面授業と自習サポートの2段階で行う放課後の学習サポートです。授業の補習ではなく、中学から大学受験を意識して、習ったことを応用する力をつけることが目的です。週2回同じ授業を開講することで、部活動と両立できる仕組みをつくっています。

■ 芝国際予備校 (高校) ※希望者のみ

自習室：15:45 ~ 20:10

授業：18:20 ~ 19:10 / 19:20 ~ 20:10

最難関国公立大・私立大を目標とする生徒を対象に、大学の過去問題を取り入れた授業を行います。1~6限の授業と放課後の予備校で受験までを完結させていくことが本校の方針です。

合格のその先を見据えた

東大セミナー・難関大セミナー・医学部セミナー

受験への心構えや合格につながる学習法を伝えるセミナーです。例えば東大セミナーは、セミナーをきっかけに志を高く持つというねらいもあります。東大を目指すには、文系理系関係なく6教科8科目に向き合うことが必須。最終的に志望校が変わっても、東大を視野に入れた学習は生徒の強みになります。医師を目指す志を育むセミナーも実施予定。医学部の面接試験では、医療や社会の問題にどれだけ目を向けているかも評価されます。医学部に入るためだけの学びでなく、医学部入学後を見据えたプログラムを目指します。

■ 東大・早稲田・シニアチューター

東大生、早稲田生、シニアのチューターが交代で常駐。勉強のサポートはもちろん、ロールモデルが近くにいることで、学びへの意欲が高まります。

■ スタディサプリ (授業動画)

1~6限の授業の不明点や、自分のペースで先に進みたい分野は、授業動画で復習・予習を行います。確認テストがあるので、理解度チェックにも役立ちます。

■ Studyplus (スタディプラス)

1~6限の授業や芝国際塾・芝国際予備校の学習内容を記録し、一人ひとりの学習状況や学習習慣を把握。教員と生徒のコミュニケーションツールとしても活用しています。

そして世界へ

The world is yours

真の国際人とは、自分の幸せはもちろん、さまざまな人や生きとし生けるもの全てと協働・共生することで身近な人から世界の幸せにまで貢献できる人だと考えています。6年間で一度は海外に行き、世界を感じてほしいと、研修・留学のチャンスを豊富に用意しています。

グローバル教育

芝国際流

グローバル教育とは

本校のグローバル教育は「多様な考え方や価値観を理解する」ことに重きを置いています。さまざまな国に行くことや、語学力を身につけることだけが最終目標ではありません。本校では、自分の目で見て感じる機会を多く設けることによって、自ら行動を起こすことのできる生徒を育てます。

FOCUS

芝国際流グローバル教育とは？

- 1 コスモ（心の教育）を基盤に、多様な考え方や価値観を知る
- 2 探究活動やアントレプレナーシップ教育で学びを深めたうえで、現地を訪れ、実社会での取り組みを体感する
- 3 多くの人と話し、共通点や相違点を知り、文化を学び相手を受け入れる

外国人教員も多数在籍

日常的に英語に触れられる環境

本校には、常勤の外国人教員も多数在籍しており、授業以外でも、校内ですれ違った教員と生徒が英語でコミュニケーションを取る姿が見られます。日々の学校生活の中で“みんな違って当たり前”ことと同時に“みんな同じ人間である”ということを感じ、外国人教員と話すことへの壁がなくなっていくます。異なる文化・社会・宗教・環境のもとで育ってきた教員の視点に触れることも、生徒たちにとって思考を深め、気づきを得る貴重な経験となります。

次の行動へのステップとなる

海外留学プログラム

※2024年度実施のもので今後、変更の可能性があります。

- オーストラリアターム留学 (3ヶ月)
- サンフランシスコ研修 (1週間)
- ニュージーランドターム留学 (3ヶ月)
- アジアSDGs研修 (1週間)
- UBC Future Global Leaders (2週間)
- セブ語学研修 (2週間)
- トロント大学 Youth IEP (3週間)



※各プログラムは、世界情勢により変更になる可能性があります。

NEWS!

タスマニア州政府国際教育課 (GETI) と『教育連携に関する覚書』を締結

国際教育における協力を強化するため、学校としては国内唯一、GETIと覚書を締結しました。生徒や教員、学校職員のグローバルコンピテンシーの育成強化に寄与するプログラム開発や、短期カリキュラム、語学研修、異文化体験などにおいて連携していきます。

心の教育

違いを認め合い、共生を学ぶ

コスモ（心の教育）

本校には、性別・国籍・育った環境などさまざまな背景を持った生徒が集まっています。地球上にはさまざまな価値観のもとで育ち、異なる考えを持つ人々がいるから、自分と他者が違うのは当たり前。そんな当たり前を理解し尊重しながら、共に行動するにはどうすれば良いのかを考えていくのが「コスモ」の学びです。

FOCUS

コスモの学びで大切に5つのポイント

- 1 協調性やコミュニケーション能力など想像（創造）力を総動員し互いの心に触れる。
- 2 ひとつの課題を多面的、多角的、批判的に考え、異なる視点や立場に触れる。
- 3 異なる意見のベースにある歴史的背景や社会的制度まで遡って考え、相手を理解する。
- 4 他者との意見交換を通して、答えはひとつではないことを知る。
- 5 違いを認め合い、一緒に行動するにはどうしたら良いかを模索する。

そして未来へ

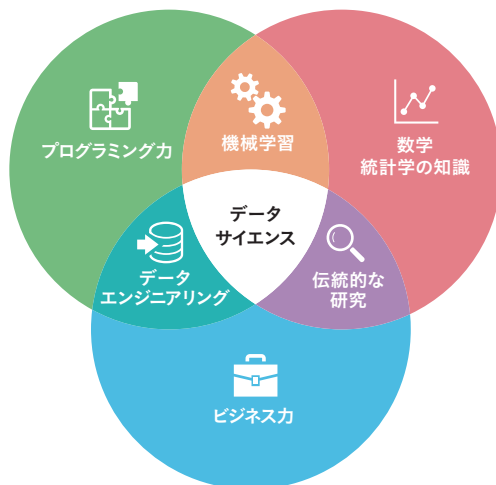
The future is yours

真の国際人とは、自分の幸せはもちろん、さまざまな人や生きとし生けるもの全てと協働・共生することで身近な人から世界の幸せにまで貢献できる人だと考えています。
6年間で一度は海外に行き、世界を感じてほしいと、研修・留学のチャンスを豊富に用意しています。

文理融合のデータサイエンス

テクノロジーを基盤とするSTEAM教育

本校では文系・理系の枠にとらわれない、AIやビッグデータといった科学技術のリテラシーを身につけ、データサイエンスを習得する文理融合の学びを実践しています。また、あらゆる方向に対してテクノロジーをベースにしたSTEAM教育を展開します。今、地球上はまさにデジタルワールド。さまざまな分野の発展はインターネットの存在なくして実現していません。だからこそ、まずはテクノロジーを身につけることが世界標準の学びにつながると思います。数学もサイエンスも、アートの分野もテクノロジーによって可能になることが格段に増えます。



FOCUS

実社会と共通のツールや題材で学ぶ

本校のSTEAM教育で特に重視しているのは、実社会と同じツールを使って学ぶということです。学習用のツールをいくら使いこなせても実社会では活用できません。そのため本校ではExcelをはじめ、実社会で使われているツールを採用。売上データを題材に分析するなど、常に社会課題と紐付けながら学習していきます。

生徒の好奇心を育む

最先端の技術と機会が充実

校舎の共有スペースに生徒が自由に使うことができる3Dプリンターを設置するなど、最先端の技術に触れ、チャレンジできる環境が充実。誰かが生み出すのを待つのではなく、自分で挑戦・行動・突破する楽しさを知る。それが生徒の好奇心が芽生える第一歩となり、イノベーションを起こす情熱が生まれます。社会への貢献とは、言い換えれば人々が幸せに暮らすためのものを“生み出す”ということ。本校ではSTEAM教育を通して、全てのイノベーションの始まりとなる「好奇心」を育てていきます。

FOCUS

ロボットづくりや宇宙産業の学びにチャレンジ

生徒たちにSTEAM教育の最先端を体験してもらいます。2023年度は、バルーンを成層圏まで打ち上げ、観測をおこないました。学んだことを活かして実際にロボットを動かすなどの体験は、生徒たちの好奇心を刺激させます。

エンジニアカルチャーと学び合い

本校では、一人一台のICT機器やネットワーク環境を整備。学校を通して全員がデバイスPCを持ち、1年生から授業の中でPCを日常的に使うことでPCの扱いに慣れていきます。教科書通りに取り組むのではなく、得た知識をもとに自分でチャレンジ。疑問や失敗にぶつかったら、クラスメイト同士で教え合いながら解決していきます。このように思考する時間を繰り返し、自分の力にしていける体験を本校では「エンジニアカルチャー」と呼んでいます。自分の挑戦したいと思うことを見つけ、行動するためのスキルを段階的に高め、突破できるマインドを養成する。知識を得るだけで完結しない、10年後の働く姿を見据えた「自走心」を育むのが、本校のICT教育の特徴です。

ICT教育の流れ

STEP 1

生徒たちに「エンジニアカルチャー」の種を植える

Excelに触れるところからスタート。さまざまな関数や機能を使って取得した情報を分析し、可視化する力を身につけます。

STEP 2

Adobeツールを用いた実践

PCを使ってできることが増えてきます。そこで第2ステップとしてAdobeツールを用いて画像や動画の編集をするなど、実践的にチャレンジする機会を増やしていきます。

STEP 3

プログラミングを使ってやってみようことにチャレンジ

より自由度を持たせ、簡単なゲームアプリやホームページなど、ひとつのものを最後まで作りきることに挑戦します。

夢の実現

Realizing our dreams

夢を実現させるための準備は、中学生の段階からスタートします。日頃の深い学びの積み重ねで、進路実現力を育みます。希望する進路を切り拓くための挑戦をつづけ、目標に向かって行動し、突破すること。それが、夢の実現につながるステップとなります。

2025年度募集コース

中学校の段階から将来を見据え、一人ひとりの夢を実現に導く2つのコース。知識をインプットするだけでなく、得た知識を活用して世界・社会に貢献できる人材育成を目指します。

本科コース

心の教育（教科コスモ）とSTEAM教育、世界標準の教育をバランス良く行います。大学入試では文理選択はありますが、教育内容としては文系脳も理系脳も育成していきます。国公立大学、早稲田・慶應・上智・東京理科大・ICU・医学部・海外大学などを目指します。

国際ADVANCEDコース

十分な英語力があり、さまざまなバックボーンを持つ生徒が対象のコースです。授業のうち、英語・数学・理科・社会は英語で行います。担任はネイティブと日本人とのダブル担任制度となるので、クラス運営は英語です。大学進学は海外大学や国内の英語を中心とした入試を持つ難関・最難関大学を想定しています。



全国レベルの模試で 学習成果を測る

STEP
1

本校では、模試も意識して日頃の授業を行います。その結果で学習成果を測ることや、全国レベルの自分の立ち位置を知ることが目的です。一般的な試験期間に集中して勉強するだけでなく、日頃から学びの定着を重視することで、幅広い進路の実現を目指します。



担任と進路指導担当が一体となる 一人ひとりに寄り添うための 「カンファレンス」

STEP
2

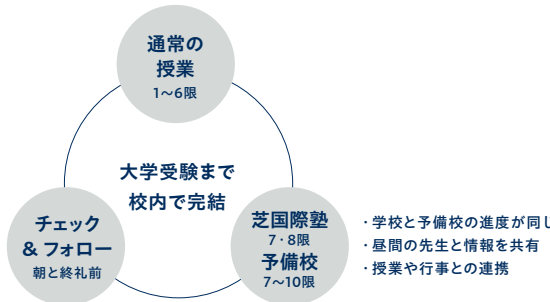
模擬試験終了後、学年ごとに担任と進路指導担当が集まり、カンファレンスを実施。模試の結果をもとに、科目の中でどの部分に弱点があるのか分析し、今後の課題を教員全体で共有し、指導にあたります。



大学受験勉強は校内で完結！ 基本の完成度を高める学習

STEP
3

本校では、1～6限の授業で「基本の完成度を高める」ことを重要視し、放課後サポートで受験対応力を身につけます。基本＝教科書の内容ではありません。基本＝原理原則を徹底的に理解することです。「なぜそうなるのか」を理解することは、教科への興味関心やモチベーションを高めることにもつながります。それが最終的に、進路実現の結果として現れます。



FOCUS

海外大学受験も強気にサポート

SAT対策講座（高校）

SATはアメリカなどの大学を受験する際に必要となるテストです。本校では放課後に希望者を対象に対策講座を実施し、一人ひとりの目標に合わせて指導します。

海外大学への進学をサポート

「UPAS海外大学進学協定校推薦制度」は、高校在学中に海外大学の英語要件をクリアすることで、語学学校を経由せずに海外大学へ直接進学する仕組みです。（一般的な海外進学で求められるSATやエッセイが基本的には不要）

UPAS協定大学

アメリカ（50校）

- Grand Valley State University
- Queens College, CUNY
- San Francisco State University
- University of Massachusetts, Dartmouth

イギリス（9校）

- University of York
- University of Essex
- City, University of London
- University of Westminster

オーストラリア（9校）

- Griffith University
- University of Sydney
- University of South Australia

カナダ

- Simon Fraser University
- University of Manitoba

ほか

ほか

ほか